

一貫教育校の広場

幼稚園

横浜初等部

普通部

中等部

湘南藤沢
中等部・高等部

高等学校

志木高等学校

女子高等学校

ニューヨーク学院
(高等部)

女子高バトン部の力の源泉

●女子高等学校 主事（バトン部長）

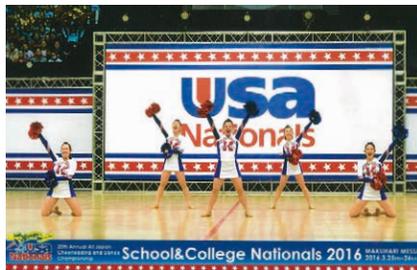
むこよしまさこ
向吉政人

女子高等学校では、課外クラブが31もある。バトン部は、その中で花形のクラブの一つと言えるが、活動の目標に掲げている柱は3つある。

まずは最も目立つ、高等学校硬式野球部の公式戦の応援参加と東京六大学野球・早慶戦の応援参加。横浜スタジアム、神宮球場のスタンドに華を添え、応援席と一体となつてのダンス・パフォーマンスは、もはや、なくてはならないものとなった。

次に、女子高の文化祭「十月祭」でのバトン部ショー。名前の通り、10月に行われる文化祭、ショー部門いちばんの呼び物である。ありがたいことに、毎年、長蛇の列ができるほどの人気ぶり。生徒が演技プログラムの構成を工夫し、本格的に準備を始めるのは夏休みから。あとは試行錯誤の繰り返しである。

しかし、「ユニコーンズ」と呼ばれるバトン部が、最大の目標としているのは、「チアリーダーディング&ダンス全国選手権大会」の出場である。全国各地で行われた地区大会を勝ち抜いたチームだけに許された全国大会。これはチアの大会では最大の大会で、「ナショナルズ」と呼ばれ、幕張メッセ・イベントホールという大きな会場においてパフォーマンスを披露し、審査の厳しいジャッジから高い評価を受けることを目標に練習に励む。



今回、紙面で紹介するのは3年生（2017年3月時点）5人のユニコーンズ。ナショナルズには、さまざまな部門、編成が用意されている。彼女たちが参加するソング／ポーン部門は、スポーツの応援をテーマにした創作ダンスで、18人以上の大編成、17人までの中編成、9人以下の小編成の3つの編成ごとに評価される。

この学年は、部員の人数が極端に少なく、新入生の頃から苦労を重ねてきたが、ダンスのスキルは高く、2015年は、全国大会への出場を審査する地区大会をもう少しで通過するレベルであった。5人で切磋琢磨し、励まし合って、翌年の2月、地区大会（埼玉県で開催）を部門トップで通過し、3月末の全国大会セミファイナル（準決勝）に進出した。この日は、同じ部門で、北海道、山形、長野、千葉、東京、北海道、静岡、愛知、大阪、熊本、神奈川、

の各大会で、第1位か2位のチームだけが参加できる。セミファイナルでは、堂々と第1位の評価を得、翌日のファイナル（決勝）に進出。決勝の場で演技ができるのは、このカテゴリーでわずか6チームである。前日1位という印象点のアドバンテージはあるものの、ジャッジはクリアな状態での再演技。しかし、5人はキレのあるパフォーマンスで高得点をマーク。見事、全国第1位の栄冠を勝ち得ることができた。女子高では、初めての快挙である。